

社会福祉法人光朔会 2008（平成20）年度運営方針

基本方針

イエス・キリストによって示された愛を入所者・利用者・入居者・園児とともに分かち合い、愛と奉仕に満ちた施設、グループホームおよび保育園を実現し、神の栄光と高齢者の福祉、子供達の未来のためにつとめる。

運営方針

1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能]

最先端の小規模多機能型施設オリンピア神戸西（仮称）の開所を目指し、特別養護老人ホーム・デイサービス・サテライトデイサービス・居宅支援事業所、グループホームオリンピア灘・高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫・地域包括支援センター・オリンピア都保育園において多機能で総合的な福祉活動を行う法人を目指す。

2. 新しい介護への転換 [小規模]

ユニットケア・グループホームケアの徹底をはかり、小規模なグループで一人一人を大切にした個別対応の福祉活動を展開し、安全を確保しつつ、衣食住の充実をはかり、尊厳と生き甲斐のもてる生活を送っていただく。

3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着]

高齢者の理解、口腔ケア、LD（学習障害）児の理解を深めるための講演会を開催し地域に貢献する。

4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流]

日本聖公会、聖公会保育連盟、キリスト教保育連盟、ミカエル教会、YMCA、大阪大学大学院、ロータリークラブ、ワイズメンズクラブ、自治会、社会福祉協議会、病院、医師会、行政などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。また、ヴェクショー大学（スウェーデン）をはじめとする海外の機関との協力体制を構築し、世界で活躍できる法人を目指す。

5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉]

毎朝の礼拝、職員礼拝の充実をはかり、キリスト教行事（クリスマス、イースター、ペンテコステなど）を実施しキリスト教の理解を深める。

6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上]

職員、パートタイマー、ボランティアを確保し、内部研修の実施と外部研修の活用等によって、資質の向上を図る。また、介護実習生、教育実習生、トライやるウィーク生を積極的に受け入れ教育し、社会的貢献を果たす。

7. 健全な財政運営 [健全財政]

入りをはかり、出を制す。収入・支出の見直しにより健全な財政運営を行う。

社会福祉法人光朔会 2008（平成20）年度事業計画

特別養護老人ホームオリンピア

特別養護老人ホーム

事業目標

1. パーソンセンタードケアを実践し、利用者一人一人と向き合う介護を行う。
2. 地域に根ざした施設づくりを行う。
3. スタッフの資質向上を図り、質の高いチームケアを実践する。
4. 財政基盤の確立を図る。
5. 「顔」の見える関係を築く。

事業計画

1. パーソンセンタードケアを実践し、利用者一人一人と向き合う介護を行う。
 - 利用者個別の生活歴や残存能力を考慮し、充実した日常生活の場を提供する。
 - 利用者・家族のニーズを反映した自己実現のためのケアプランを作成し、個別対応を基本とした介護を実施する。
 - 利用者一人一人との関わりを重視した、寄り添う介護を行う。
 - 施設内の活動にとらわれず、生活の範囲を広げる。
 - 利用者が主体的に関わることの出来る行事を企画・実施する。
2. 地域に根ざした施設づくりを行う。
 - 地域、他団体との協力関係を強化し、地域ぐるみの高齢者ケアを展開する。
 - 地域の行事などに積極的に参加し、地域住民を巻き込んだプログラムを行う。
 - 地域関係者、近隣住民等の見学・相談を随時受け入れる。
 - 福祉の啓発活動として、近隣の小・中学生を対象とした福祉講座を実施する。
3. スタッフの資質向上を図り、質の高いチームケアを実践する。
 - 「オリンピアの理念」「オリンピア三つの約束」を実践しする。
 - 多職種連携によるケアを実践する。
 - 施設内研修の充実を図り、意識向上を図る。
 - 外部研修にも積極的に職員を派遣し、常に新しい知識と技術を取り入れる。
 - スタッフ一人一人の課題を明確にし、評価・改善に取り組む。
 - 専門職意識を高め、接遇態度のさらなる向上を目指す。
 - 各種資格・技能取得のためのバックアップ体制を作る。
 - ボランティア・実習生の受け入れを通し、社会貢献を果たすと共に、スタッ

フのリーダーシップを向上させる。

4. 財政基盤の確立を図る。

- 年間宿泊率98.0%を目指し、収入の増加を図る。
- 意味あるものにコストをかけ、無駄を無くすことで収支のバランスを取る。
- 入所待機者、居宅介護支援事業所と連絡を密にし、空床の解消を図る。
- 医療機関との連携を充実させ、入退院時の調整ならびに利用者の疾病管理を行う。

5. 「顔」の見える関係を築く。

- 入居者・利用者が安心して生活できる環境（人・もの・雰囲気）をつくる。
- 利用者はもちろん、家族とのコミュニケーションを大切にし、利用者・家族・スタッフが協働して、施設運営に取り組む。
- 利用者の尊厳に配慮し、身体拘束を撤廃する。
- 事故やヒヤリハットを事例検討し、安全で自由な環境になるよう改善する。
- 「傾聴・受容・共感」することを大切にし、利用者の心の声に耳を傾け、それに応じていける関係作りを行う。

デイサービス

事業目標

1. のべ利用者数6800人(平均26.6人/日)を目指す。
2. 利用者の自立支援に努め、個々側面からの援助を実施する。
3. 介護職員の確保、意識の向上に努める。
4. ボランティア・実習生・見学者を積極的に受け入れ、相互の向上、地域交流を深める。

事業計画

1. のべ利用者数6800人(26.6人/日)を目指す。
 - 予算計画に沿って、安定した経営の中、介護サービスを最大限に行う。
 - 事業総収入計画 65,670(千円)を目指す。
 - 既存利用者を維持し、新規希望者の受け入れを積極的に行う。
2. 利用者の自立支援に努め、側面からの援助をする。
 - 利用者へのケアの充実、個別目標に沿った安定したサービス提供。
 - 利用者の主体性、自己決定を尊重したケア、援助。

- 各担当機関との連携。利用者の情報を把握し、丁寧なケアにつなげる。
- 多様なプログラムによって、幅広く利用者の身心機能を助長する。
- アンケート調査の実施

3. スタッフの資質向上を図り、ケアへの意識を高める。

- ケアと業務改善内容およびリスクマネジメントの研修、情報共有を徹底。
- 利用者へのケア、援助につながる、人材の育成、教育。
- 利用者、家族のニーズをつかみ、ケアに生かす。
- 他施設との研修会、職員交換研修を通して情報交換。

4. ボランティア・実習生・見学者を積極的に受け入れ、相互の向上、地域交流を深める。

- 他福祉施設、介護体験の一般学生などの積極受け入れ、実習指導、意見交換の実施。
- 保育園、幼稚園、小学校の子供たちとの交流を深め、相互の活性に努める。
- トライやるウィーク、地域生徒の受入、学習協力。
- コンサート、演芸ボランティアなど受入。
- 介護者教室の実施、一般の方、関連機関へのご案内。
- 保険外サービス（外出プログラムなど）を取り入れ、地域参加する。

サテライトデイサービス

事業目標

1. 年間延べ利用者数 2,000人（平均8.2/日）を目指す。
2. 地域におけるオリンピアの知名度、評判の向上を目指す。
3. 質の高い介護予防プログラムを提供する。
4. 利用者の声を反映したプログラムを構築する。

事業計画

1. 年間延べ利用者数 2,000人（平均8.2/日）を目指す。
 - 総収入計画：¥9,100,000
 - 介護予防プログラムを上限（月当たり15日）まで実施し、介護予防加算による収入を得る。
 - 既存利用者の健康を維持する事により、出席率の維持・向上を目指す。
2. 地域におけるオリンピアの知名度、評判の向上を目指す。

- 利用者に楽しんで頂き、口コミでの利用者増に繋げる。
- L S A や地域の自治会、民生委員を通じて、オリンピアの活動を広く知って頂く。
- 地域の要望に応える、充実したサービスを提供する。

3. 質の高い介護予防プログラムを提供する。

- 現在、「介護予防型デイサービス」と「閉じこもり防止型デイサービス」の2つのプログラムを実施している。
- 介護予防プログラムについては、①運動器の機能向上②栄養改善③口腔機能の向上、の3つを実施している。
- 各プログラムにおいて、専門職を中心に内部研修を通じて知識を深め、質の高いプログラムを提供する。

4. 利用者の声を反映したプログラムを構築する。

- 利用者が気兼ねなく楽しめるプログラムを検討・実施する。
- 利用者の声をまとめて、外出行事も充実させる。
- 自立度に関わらず楽しめるプログラムを提供する。
- 利用者一人ひとりが楽しめるレクリエーションを追求する。

居宅介護支援事業所

事業目標

1. 要介護者ケアプラン月87件・要支援者ケアプラン月16件確保する。
2. 認定調査員は専任とし、認定調査の資質向上を図る。
3. 質の高い居宅介護支援をする。
4. 地域包括支援センターから委託を受けて介護予防支援ケアマネジメントを行う。
5. ケアマネジャーの資質向上を図る。
6. 介護保険サービス第三者評価に向けて自己評価を行う。

事業計画

1. 要介護者ケアプラン月87件・要支援者ケアプラン月16件確保する。
- 専任ケアマネジャー1人あたり35件・兼任ケアマネジャー17件
 - 新規認定調査実施事業者が指定市町村事務受託法人となっているため新しい利用者の確保が困難と思われる。
 - 申請代行については指定居宅支援事業所にて行うことが出来るため、新しい利用者の確保に向け積極的に申請代行を行う。

○要支援1・要支援2の介護予防プランの委託を受けてケアプラン数の確保を図る。

2. 認定調査員は専任とし、認定調査の資質向上を図る。

- 認定調査員を専任とする。
- 調査に関する研修会は積極的に参加する。
- 調査票などの管理に関しては慎重に取り扱う。

3. 質の高い居宅介護支援をする。

- 居宅サービス計画を利用者に交付する。
- 月一回は利用者の居宅を訪問し、訪問記録を作成する。
- 月に一回、居宅サービス計画の実施状況を把握し、モニタリング記録を作成する。
- 介護認定更新時や要介護認定の変更があった場合等において、ケアカンファレンスを開催する。
- 医師との連携を図る。
- サービス提供事業所との連携を密にし利用者の状況把握に努める。
- 家族との連携を密にし、利用者にとって必要な援助を考えていく。
- 介護サービス以外の社会資源の活用もプランに組み入れていく。
- 在宅での生活が安全に継続出来る様、援助し見守っていく。

4. 地域包括支援センターからの委託を受け介護予防ケアマネジメントを行う。

- 介護予防支援専門員1人当たりにつき8人を限度に介護予防支援に添ったケアマネジメントを行う。
- 地域包括支援センターなどが実施する事例検討会などに参加していく。

5. ケアマネジャーの資質向上を図る。

- 研修会に積極的に参加する。
- 情報の収集に努めプランに生かす。
- 社会資源を活用していく。
- 介護予防・自立支援の観点に立った地域包括支援センターとのネットワークを活用していく。
- 利用者との十分な意思疎通に基づく適切なケアマネジメントの実施を前提としてサービスの質・機能などに応じたプロセス成果を積極的に評価する。

6. 自己評価を行う。

- 改善の必要性のある項目（自己評価シート）に関しては改善に向けて取り組んでいく。

地域包括支援センター

事業目標

1. 高齢福祉に関する、地域の総合相談窓口としての充実化
2. 光朔会と地域との架け橋になる事業展開
3. 財政基盤の確立
4. 専門職の更なる資質の向上

事業計画

1. 高齢福祉に関する、地域の総合相談窓口としての充実化

- 公平中立な視点を持ち、保険・医療・福祉の関係諸機関や民間の諸団体とのネットワークを構築し、多職種協働することで、高齢者をはじめとした地域住民が「いくつになっても安心して生活できる地域」づくりに努める。

2. 光朔会と地域との架け橋になる事業展開

- 神戸市の委託事業所としての、公正且つ中立的な業務運営を確保する。
 - * 総合相談支援業務，権利擁護業務，ケアマネージャーや関係機関との包括的・継続的マネジメント事業，地域見守り活動推進事業の体制強化等
- 地域における行事への参加を通し、民生委員や友愛訪問奉仕員等の地域のボランティアとの繋がりを深めていく。
- 認知症の講演会や介護者教室等、法人独自の企画・運営を案内していくことにより、開かれたセンターとして、更なるネットワーク広げていく。
- 専門機関として、困難事例への積極的な関与により、地域の後方支援の位置付けを定着させていく。

3. 財政基盤の確立

- 2008年度事業所予算（27,195千円／年）を達成するよう努める。
- 予防支援事業 介護予防指定事業所として、介護予防プラン（240件／月）の実施と居宅介護支援の委託事業所との連携体制の構築。
- 介護予防評価分析事業情報収集業務の実施。
- 介護予防普及啓発事業の実施。
- 予防支援事業 特定高齢者施策の実施。

4. 専門職の更なる資質の向上

- 神戸市主催の定期的な講演会並びに研修会の企画・運営に積極的に携わることにより、専門職の更なる資質の向上を図る。
- 地域包括支援センターという専門的な機関を担うことにより、神戸市の高齢

- 福祉に関する最新施策に関する情報を把握し、いち早く対処できるように、定期的な連絡会への参加と学習会を自主運営していく。
- 担当圏域内の地域における社会資源をネットワーク化することにより、各人の更なる資質の向上を図る。

グループホームオリンピア灘

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. 利用者の生活の質の向上
3. 地域との交流
4. 見学者・実習生の受け入れ
5. スタッフの資質向上

事業計画

1. 財政基盤の確立

- グループホームの収入の安定を計る。
- デイサービスの1日平均利用者数をアップする。

2. 利用者の生活の質の向上

- 「パーソンセンタードケア」の実践により、おひとりおひとりが、「生活の主人公」になれるようサポートさせていただく。

3. 地域との交流を図る。

- 地域住民、ボランティアを多く受け入れ「地域に開かれたグループホーム」を目指す。
- 地域で行われる行事（お祭りetc）に積極的に参加する。

4. 見学者・実習生の受け入れ

- 利用希望者の見学を積極的に受け入れる。（他事業所ケアマネへのPR）
- 実習生を積極的に受け入れる。

5. スタッフの資質向上「オリンピア灘の3つの約束」の実践、再確認

- 認知症高齢者ケアに関する理論的かつ実践的な研修をスタッフに定期的に行う。
- 接遇、マナーの向上に努める。（敬語による会話の徹底）

- 積極的に資格試験・研修を受ける。
(認知症介護実践研修・介護福祉士・介護支援専門員・社会福祉士etc)
- スタッフ全員が救急救命士講習を受講する。

認知症高齢者グループホーム

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. 入居者の生活の質の向上
3. 地域との交流

事業計画

1. 財政基盤の確立

- 年間稼働率97%を目標とする。(07年度実績96%台の予定)
- 入居申込書を随時更新し、退居者が出た後、1ヶ月以内に新入居者を迎える。
- 入居者が入院した時は、本人・ご家族・担当医師と密に連絡を取り、1日でも早い退院を目指す。

2. 入居者の生活の質の向上

- 入居者おひとりおひとりが日々の役割を今まで以上に自主的・積極的に行い、オリンピア灘の理念である「生活の主人公」となる。
- 個別ケア・チームアプローチによりスタッフの共通理解のもと、認知症高齢者ケアにあたる。定期的にフロアカンファレンス及び全体でのリーダーカンファレンスを行う。
- 3ヶ月毎にアセスメント、ケアプランを作成し、おひとりおひとりの「その人らしさ」の生活を援助する。。
- 日々の安全確認及び衛生管理に努め、怪我・病気を減らす。

3. 地域との交流を図る。

- 運営推進会議を2ヶ月に一度開催し、地域の代表(自治会、あんしんすこやかセンター職員)の方々との情報交換を定期的に行う。
- 日常的に散歩、外出、地域商店街への買い物、地域の行事への参加を積極的に行い、「地域の中で生活する」ことを目標とする。

認知症高齢者デイサービス

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. 質の高いサービスの提供

事業計画

1. 財政基盤の確立

- 年間利用平均1.7人/日を目標とする。(07年度実績1.6人/日の予定)
- 居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンターへ定期的に情報を発信し、安定して利用者を確保できるよう継続的に募集活動を行う。

2. 質の高いサービスの提供(利用者により楽しんでいただく環境作り)

- 利用者おひとりおひとりの趣味、特技を活かせる場を提供する。
- グループホームの入居者と一緒に、家でされることの少なくなった家事に、再び取り組んでいただき、自信を取り戻していただく。

高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫

事業目標

1. 「小規模多機能ケア」の確立
2. 広報活動の強化
3. 財政基盤の確立
4. 新規事業の開始
5. ケアの質の向上

事業計画

1. 「小規模多機能ケア」の確立

利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することが小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」を確立する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより複数サービス利用者の増加につなげるほか、各ユニットがひとつの「家」としてのビジョンを持ち、ユニット間の交流を図る。

2. 広報活動の強化

「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、新聞・雑誌等各種媒体を利用したPR、館長による外部での講演活動、「Salon de l'Olympia」など地域における行事への参加等とともに、実習生・ボランティアの受け入れも積極的に行う。また、地域交流スペース「Cafe Olympia」を活用し、地域に開かれた施設を目指す。

3. 財政基盤の確立

安定した経営を行うために、財政基盤を確立する。また、制度改革などに際して安定した収入が確保できるように、徹底して情報収集を行い、速やかな対応を行う。具体的数値に関しては各部門の事業計画を参照。

4. 新規事業の開始

ニーズや社会の情勢に応じた新規事業開始の可能性を検討する。人材の確保、マーケティング調査を行うとともに、プロジェクトチームを発足させ、具体的なスケジュール調整を行う。

5. ケアの質の向上

従来の大規模・画一的な施設ケアとは一線を画した、個別ケア・チームアプローチによるこれからの高齢者ケアのあり方を実現することにより、入居者のADL状況・認知症の改善を図る。目標達成のために、①高齢者ケアに関する理論的かつ実践的な研修をスタッフに対し定期的に行い、スタッフの高齢者ケア技術の向上を図ると共に、②定期的なユニットカンファレンスおよび全体でのリーダーカンファレンスを行い、日々変化する個々の事例の状況に対応する。

認知症高齢者グループホーム

事業目標

1. ケア理念の遵守－「生活の主人公は利用者ご本人です。」
2. 財政基盤の確立を図る。
3. 地域に密着した運営を行う。
4. スタッフの資質向上をめざす。(プロ意識の育成)

事業計画

1. ケア理念の遵守ー「生活の主人公は利用者ご本人です。」

- ユニットのビジョンを明確にし、「生活の場」にふさわしい環境作りを行う。
- 入居者おひとりおひとりを「よく知る」ことにより、持てる能力を最大限に発揮しながら生活をしていただくことができるような「お手伝い」をする。
- グループ・ダイナミックスの効果を生かし、入居者おひとりおひとりに役割や責任をもっていただき、「生活の主人公」としてふさわしい生活を実現する。

2. 財政基盤の確立を図る。

- 年間稼働率94%を目標とする。
- 利用収入目標 9,190万円(介護保険収入5,830万円・居室料他3,360万円)とする。

3. 地域に密着した運営を行う。

- 運営推進会議の内容の充実を図る。
- 地域各種団体との連携をはかり、地域行事等の参加を積極的に行う。
- 地域の学校・幼稚園等との交流を図り地域に根ざした、活動をする。

4. スタッフの資質向上をめざす。(プロ意識の育成)

- いつも笑顔であいさつをし、気持のよい言葉づかいをする。
- スタッフのレベルに応じた内部研修を定期的を実施し、随時受講する。
- スタッフ全員が年間1回以上介護に関する外部研修を受講する。
- スタッフ全員が救急法(心肺蘇生法・市民救命士)の講習を受講する。

ショートステイ

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. サービスの向上
3. スタッフの資質の向上
4. 地域に密着した運営

事業計画

1. 財政基盤の確立

- 年間利用率98%を目標。
- リピーター、長期利用者の獲得と維持。

- グループホーム、特別養護老人ホーム待ちの利用者を獲得と維持。
- 居宅介護支援事業所へ空き情報の発信。サロンドル・オリンピアを情報発信の場として、有効に使用する。
- 利用予約時に満床の場合は空き待ちを勧め、利用者の急なキャンセルや入院時に備える。

2. サービスの向上

- リーダー会、ユニットカンファレンスを定期的に行い、利用者おひとりおひとりに合わせたケアを実現する。
- ケアプランの遵守
- ご家庭での生活と、施設滞在時での生活を近づけることで、安心したお気持ちで過ごしていただく。
- 各ユニットで毎月目標をたて、より良いサービスを提供する。
- 外出の機会を提供し、気分転換をしていただく。歩行など、残存能力を維持していただくためにも、積極的に外出する。

3. スタッフの資質の向上

- 言葉づかいなどのマナーを向上し、理念を遵守する。
- 内部、外部の研修に参加し専門知識の向上を目指す。
- 緊急時の対応など、普段から確認し、急変時には冷静で的確な行動をする。
- 全てのスタッフが、責任と自覚を持って行動する。

4. 地域に密着した運営

- 地域商店街などの利用や、学校、自治会のイベント参加により、地域の方々との交流をはかり良い関係を築いていく。
- サロンドル・オリンピアや季節行事に、地域住民の方をご招待し、地域の方へ開かれた運営を目指す。
- ボランティア、実習生を積極的に受け入れ、外部からのマンパワーを活用する。

デイサービス

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. 地域密着
3. 人材育成

事業計画

1. 財政基盤の確立

- 年間稼働率65%を目標として必達する
- 情報発信資料見直しによる発信力の強化
- 欠席者防止のための感染症対策の強化
- 月間達成目標の設定による目標意識の醸成を図る

2. 地域密着

- 施設内へ気軽に入れる環境を整備する
- 2007年度に引き続き「Salon de l'Olympia」活動を展開し、知名度向上のツールとする：2ヶ月に1回、演奏会や講演会を開催し、オリンピア兵庫発の地域コミュニティ作りの拠点とする
- 地域の民生委員や地域包括支援センターとの連携について模索する

3. 人材育成

- ケアワーク能力の育成
介護保険制度の理解促進と介護技術の熟達支援
- 定期的な内部勉強会の開催
- 外部研修会への参加奨励と研修会情報の提供
- 自己啓発活動、資格取得活動の奨励
- 外部からの積極的な研修生受入
- 2009年度介護保険報酬改訂に向けた情報収集と対策の早期実施

居宅介護支援事業所

事業目標

1. 財政基盤の確立
2. 新規利用者の獲得
3. 外部との交流
4. スタッフの資質の向上
5. 小規模多機能ケアの推進

事業計画

1. 財政基盤の確立

- 2008年度事業所予算を達成するよう努める。

2. 新規利用者の獲得

- 新規利用者数獲得に努める。
- 現在要介護者数25名を30名に引き上げる。
- 介護予防委託件数8件（現在）を維持する。

3. 外部との交流

- オリンピア兵庫の居宅におけるケアマネジャーは1人であるが外部との交流に努め和を図りつつ介護保険事業における新知識の獲得、PRに努めていく。ケアマネジャー連絡会（兵庫区役所内にて1回/月）など。

4. スタッフの資質の向上

- 外部・内部で実施される研修に積極的に参加し、ケアマネジメントや介護サービスに関する知識を深め、日々の業務において実践する。
- サービス情報の公表に向けて、サービスの質の向上に日々務める。

5. 小規模多機能ケアの推進

- グループホーム・ショートステイ・デイサービスを一体的に提供することができるオリンピア兵庫のメリットを最大限に活用するため、利用者情報を的確に把握し、スムーズにサービスを移行することができるようにする。

オリンピア都保育園

保育園

事業目標

1. 保育の理念・計画（保育指針改定）
2. 保育者集団の育ち
3. 保育参加
4. 園庭開放
5. 障がい児保育について
6. 待機児童の対応
7. 安全管理の周知徹底
8. 地域に根ざす
9. 実習生・ボランティアの受け入れ
10. 連盟の子育て支援への参加

事業計画

1. 保育の理念・計画

- キリスト教保育の遵守をする。
- 子どもの権利と幸福と親の希望を見据える目を持つ。
- 子どもが健康な心と身体で楽しく過ごす事が出来るように心掛ける。
- 保育園の保育理念の確認と共通理解を持つ。
- 保育指針改定に伴い指針の共通理解を持つ。

2. 保育者集団の育ち

- 自然の移り変わりを敏感に捕らえる感性を磨く。
- 日常の生活を通して子どものモデルになる。
- 専門性の自己研鑽—積極的な研修参加・技術の向上を目指す。
- 子どもと遊ぶことが楽しいと思える保育者になる。
- キリスト教保育の実践者としての自覚を持つ。

3. 保育参加

- 引き続き参加を呼びかける。誕生会の参加だけでなく通常の保育に参加をもらい子どもの様子、他児との関係性などにも気づいてもらうようにしたい。家庭保育の参考になるように話し合いも多く持つ。

4. 園庭開放

- 参加人数が増えてきた。地域の子育ての発信場所として子育ての方法や工夫を提供していく。親の友だち作りの場ともなるが、子どもを見ないで親のお喋りの場となりがちなので、あくまでも親子の関わりを中心とした場の提供となるようにする。

5. 障がい児保育について

- 障がいを子どもの個性と捉え、子どもの状況をしっかり把握し、集団の中で育ち合うことが出来るように保育を進める。
- 研修を積極的に受け理解を深める。障がい児保育は全ての保育の原点となることを意識しながら保育を進める。
- 障がいの認定を受けていない子どもの中にも気になる子どもがいるので、全員でしっかりと関わりを持ちながら保育を進める。
- 家庭の痛みを共有し支えていく。

6. 待機児童の対応

- 定員（90人）を超えて受け入れる。

- 措置児以外に一時保育等での受け入れをする。
- 行政にも働きかけ処遇の向上を求める。

7. 安全管理の周知徹底

- 職員の安全管理の周知徹底をする
- 地域との交流を深め、地域パトロールに感謝する。

8. 地域に根ざす

- 地域との交流（小学校、子供会、婦人会との交流）
- 地域行事への参加（風の家 of 積極的利用・公園清掃の協力・もちつき参加）
- 園庭開放・育児相談の実施

9. 実習生・ボランティアの受け入れ

- 頌栄短期大学・園田学園女子短期大学・神戸医療福祉専門学校 等
- トライやる・体験学習の受け入れ（中学校・高校）

10. 連盟（私立保育園・キリスト教保育園）の研修、子育て支援への参加

- 保育理念、技術、保育の動向を学ぶ。
- 子育て支援講座、公開保育等の支援・協力を行う